

令和3年度 第1回 夢・未来 たからづか創生本部会議 議事録

日時：令和3年10月5日（火）9：00～10：30

場所：3-3 会議室

【次第】

- 1 開会
- 2 議事
議題1 令和2年度 夢・未来 たからづか創生総合戦略の評価について
議題2 令和2年度 地方創生推進交付金の評価について
議題3 第2期 夢・未来 たからづか創生総合戦略の推進体制について
- 3 その他
- 4 閉会

【配布資料】

- 資料1 宝塚市の人口推移
- 資料2 夢・未来 たからづか創生総合戦略の評価方法等について
- 資料3 令和2年度 夢・未来 たからづか創生総合戦略評価シート【基本目標】
- 資料4 令和2年度 夢・未来 たからづか創生総合戦略評価シート【具体的施策】
- 資料5 地方創生推進交付金の概要
- 資料6 令和2年度 地方創生推進交付金 評価シート
- 資料7 第2期 夢・未来 たからづか創生総合戦略の推進のために
- 資料8 第2期 夢・未来 たからづか創生総合戦略 概要版
- 参考1 夢・未来 たからづか創生本部設置要綱
- 参考2 夢・未来 たからづか創生総合戦略庁内検討会設置要綱

【出席本部長】※順不同

市長、副市長、技監、教育長、理事、企画経営部長、行財政改革担当部長、市民交流部長、総務部長、都市安全部長、都市整備部長、健康福祉部長、ワクチン接種担当部長、子ども未来部長、環境部長、消防長、管理部長、学校教育部長、上下水道局長、新ごみ処理施設整備担当参事

【議事録】

本部長：本市では、平成27年度に「宝塚市人口ビジョン」及び「夢・未来 たからづか創生総合戦略」を、令和3年7月に「宝塚市人口ビジョン 改定版」及び「第2期 夢・未来 たからづか創生総合戦略」を策定し、地方創生関連の交付金を活用するなど、様々な地方創生の取組を通じて各種事業を進めてきた。

地方創生の推進については、実施した施策・事業の効果を検証し、PDCAサイクルを実行していくことが国から求められている。

今回、第1期総合戦略に係る令和2年度の取組状況や地方創生推進交付金の評価について、外部有識者から意見をいただくとともに、この創生本部の下部組織である「夢・未来 たからづか創生総合戦略庁内検討会」において、令和2年度の取組の効果検証等を行い、評価シートを作成した。

本日は、この評価シートを基に意見交換を行う。また、令和3年7月に策定した「宝塚市人口ビジョン 改定版」及び「第2期 夢・未来 たからづか創生総合戦略」の内

容について共有し、今後の進め方についての経過報告を受けたい。よろしく願います。

(1) 議題1 令和2年度 夢・未来 たからづか創生総合戦略の評価について

- 本部長 : 議題1について、事務局から説明をお願いします。
- 事務局 : (説明)
- 本部長 : 何か質問や意見、感想はあるか。
- 本部員 : 基本目標3について記載を担当したが、外部有識者から意見を受けた取組みのうち、第2期計画に引き継がれているものについては、第2期で引き続き取り組むのか、一旦ここで終わりとするのかを教えてほしい。次の取組みにどうつなげるかを聞きたい。
- 事務局 : 第2期総合戦略は7月に既に定めているため、外部有識者から頂いた意見は第2期で定めた新たな計画に取り組む際に、その内容を取り込んでもらいたい。評価の方法は、今後評価シートを作るだけでなく、今後どういう取組みをしていくかを全庁的に議論していく必要があると認識している。今後その組織体制について、上半期に評価して、下半期にどう生かしていくかを議論するというサイクルで進めようとしている。
- 本部員 : 基本目標3の外部有識者意見に「市内に素敵な材料は揃っている。それを活かすような新しい宝塚像を提示してほしい」という意見があるが、産業文化部では7月に第2次宝塚市文化芸術振興基本計画をとりまとめ、文化創造をキーワードとした新しい宝塚像が提示されたと思っている。有識者の方々は、この計画のことをご存知なかったのか、それともご存知の上でもっとこうしてほしいという意見であったのか。
- 事務局 : こちらの意見については、西谷地域に関する具体的施策のところを出た意見を色濃く反映したものだたと認識している。ダリア園の駐車場に大型バスが止められるといった情報が、市民に伝わっていなかったために、もっと周知が必要であるという意見であった。また、西谷に限らず宝塚の楽しみ方をパッケージングしてPRしてほしいという意見であった。
- 本部員 : 有識者意見のまとめ方の問題だと思うが、先ほど説明を受けた内容を、このように全体的な方針がないといった意見としてまとめるのは少し乱暴ではないかと思う。
- 事務局 : 外部有識者に記載いただいた表現をそのまま記載している。その箇所に関する有識者会議でのやりとりは先ほどの説明のとおりであったが、それを反映した表現を考えたいと思う。
- 本部員 : 表現を直してもらえるということには期待したい。先ほどの話では、市民への情報発信が必要という意見になる。新しい宝塚像については、市民にしっかり提示しており、表現を考えていただきたい。
- 本部員 : 他の会でも有識者の意見をいただくことがあるが、外部有識者の方々は見識が高いため、できているところでも評価が低く、できていないところは課題としてあがってくるため、そのような評価になりやすいと感じる。総合戦略の評価については、市としてこういうまちにしたいということ特定して積極的に取り組むことが目的であり、課題だけでなく良いところを評価してもらった方がいいのではないかと

- と考えている。その方が市民も受け止めやすいのではないか。
- 本部員 : 外部有識者の意見を受けての対応のところは庁内で議論してから決めるべきではないか。
- 本部員 : 基本目標3をとりまとめたが、健康から地域の活動、公園や道路なども含まれ、非常に幅が広い。複合的にまとめるとこのような記載になった。各室長が具体取組の中で外部有識者と質疑応答を行うため、本来であればそのやり取りの中で有識者にも理解してもらえらると思う。しかし、実際には非常に多くの事業を一日にヒアリングされるため、色々な意見が混在して出てきている。基本目標3であれば、16の具体的施策をまとめた形で意見を書くことになるため、有識者にとっても難しい作業になっていると想像する。
- 事務局 : 基本目標や具体的施策のシートごとに評価を書くため、意見がぼんやりとしてしまっている。市としてどういう方向で地方創生を進めたいかを十分に話し合っていない状態で、16の施策を個別に評価するため、有識者もどのような方向性で意見しているのか分かりづらくなっている。市としてどの点を重視するかを正確に有識者に伝えることが重要になるため、今回の議題3をあげているという側面がある。
- 本部長 : 出された意見を反映するという事で議題1を承認してよろしいか。
- 本部員 : <異議なし>
- 本部長 : それでは承認とする。

(2) 議題2 令和2年度 地方創生推進交付金の評価について

- 本部長 : 議題2について、事務局から説明をお願いします。
- 事務局 : (説明)
- 本部長 : 何か質問や意見、感想はあるか。
- 本部員 : 令和元年から3年までの各年度の交付決定額はいくらか。
- 事務局 : 交付決定額では、令和元年度が2,589万円、令和2年度が1,169万円、令和3年度が1,599万円である。
- 本部員 : それは国の財源の問題か、市の申請の問題か。
- 事務局 : 市の申請額自体が少ないためである。
- 本部員 : 阪神各市は同様に下がってきているのか。
- 事務局 : 事業費ベースでは1.4億円、交付決定額ベースでは7,000万円が上限額であるが、上限まで申請している自治体もある。
- 本部員 : 宝塚市がこれを取れない理由は何か。申請が各部から少ないだけか。こういう計画は作るだけでなく、財源を生み出すことが大切である。他にも既存の事業も工夫すれば補助金を取れる可能性もあると思うが、誰もが財源を獲得しようとする意識が薄いのではないか。皆がそういう意識を持たないと、会議をしても変わらないのではないか。各部が考えないといけない。財政が厳しいと言いながら、宝塚市は努力不足と言われても仕方がない。なぜ増やそうとしないのか。庁内になぜ発信しないのか。そういった趣旨の会議の方が大事ではないか。予算担当も含めてもっとがむしゃらにならないといけないのではないか。問題と思ってもらわないといけない。
- 本部員 : 第1期の総合戦略を作った際に事業を組み立てようとしたが、なかなかアイデアが出てこなかったのが実情である。地方創生交付金については、新たな取り組みや

既存事業を組み替えて国に提示できれば獲得できるものであると理解している。そのために、いかに交付金を活用するか、既存の事業に結び付けるかを検討するための推進体制を検討する必要があると考えている。

本部員 : 地方創生の制度ができた時には、既存の補助金がなくなることから市にとっても危機感があった。そのときは頑張って獲得に動き、数年間は阪神間で宝塚市が一番だった。初めは各部から提案が出て来るのは難しいことから、政策推進課の担当者が各部に相談に出向き、交付金をつけられる方法を検討し、うまく作文して強引に事業化していた。昔は産業系以外でも事業化していたため、やり方によってはもっと交付金を獲得できると考える。政策室と事業部で協力して取り組む必要がある。

本部員 : どの部も、自分たちの事業に行革効果があるのかを慎重に考えている時期だと思う。新たな事業を実施する際にも、その事業で自分たちのやりたいことが達成できるかを考えている時期であり、どの部も難しいと思う。その辺りを整理した上で、補助金を獲得できるものを検討する必要がある。

本部員 : 今の実計の仕組みでは、新たな財源を獲得しないと新しい事業ができない。新しい取組みをやろうとしたら取りに行くしか道がないため、絶対取りに行くという思いで取り組んでいる。

本部長 : 今いただいた意見は全体に関わる大切な話であった。事務局と本部員全員でしっかりと考えていくということで、議題2は承認してよろしいか。

本部員 : <異議なし>

本部長 : それでは承認とする。

(3) 議題3 第2期 夢・未来たからづか創生総合戦略の推進体制について

本部長 : 議題3について、事務局から説明をお願いします。

事務局 : (説明)

本部長 : 何か質問や意見、感想はあるか。

本部員 : 今回は第6次総計と総合戦略をリンクさせているという話だったが、宝塚市がどういうまちづくりをするかを外部有識者と十分に話し合いができていのかか懐疑的である。施策だけを捉えて市の考え方を議論していることが大きな問題である。市の考え方を体系的に整理していく必要がある。体制がどうあるべきかという議論は必要だが、単なる交付金のための計画ではなく、宝塚市のまちづくりを具現化し、そこに施策がどう絡んでいくかを慎重に議論するという進め方が重要である。

本部員 : 地方創生推進交付金を獲得するマインドをどのように喚起できるかという論点で考えていた。資料72ページの推進体制のところ、自分も庁内検討会の委員の1人として議論してきた。担当部門のところの話はできるが、庁内横断的にパッケージとして交付金を獲得していこうというマインドにつながっていなかったと反省している。フラットな関係性の中では、施策を横軸でコーディネートしていくことがうまくできない。政策推進課の担当者が交付金を取れるアイデアを模索するような推進体制が望ましい。自分でも横軸を意識しないといけない。外部有識者は横軸で見えており、担当部局の説明以外のところを指摘することになるため、それに答えられるような推進体制や評価体制が必要だと感じる。行革との関係性については、これからの行革の取り組み方針の中に、総合戦略の欄があった。そこに何を書いて何に取り組むのかと考えていたが、今一度総合戦略の今後の計画と行革との整合性

を考えた上で使っていきたい。前より整理された計画であると思うが、予算獲得という意味と行革の考え方の整理が必要だと感じた

本部員 : 一定の方針が決まっているのだから、その方針の中で交付金をとっていけばよいが、悩んでいる部署ももちろんある。行政が何もかも作ることに限界があり、民間の力を借りながらまちをつくる必要がある。そこにどう絡めるかを考えた上で必要な事業を実施し、そこに交付金がもらえれば一番良い。

本部員 : 事務局から説明のあった推進体制については、これまで 11 室長で行っていたが、できれば多くの室長に入ってもらい、それぞれの目線でどう横串を刺していけるか、総合戦略の目指すものにどうつなげていくかを考えてもらえるような体制にしたいと考えている。既に庁内検討会にも投げかけているが、増やす必要がないのではないかという意見や、前段のところを整理しないと増やす意味がないのではないかという意見をもらっている。それら意見については検討会の方でも整理するが、できれば関係室長が大半入るような形で推進する方がよいと思っている。

本部員 : 室長級会議の人数をどうするかは考えて決めてもらえればよいが、その後本部会議に上がってきたときに、本部会議の在り方について気になるところがある。昨日あった行革の推進本部会議を見ても、担当部の説明が中心でそれぞれが意見交換することが少ないと感じる。横串が課題という話があったが、議会の質問でも部局をまたがるものは市長 1 人が答えることになっている。推進本部会議は、横の関係を作るために作った会議だと考えている。設置要綱にも、「本部員は、総合戦略の策定と実行に向けて、関係部局との調整及び連携を行う」と書かれている。それぞれが横串・連携をもってやっつけていかないといけない。他部門のことに意見を言いつらいということもあると思うが、もっと活性化しないといくら室長級が頑張ってもいけないのではないかという気がする。

本部員 : 各部長がそれぞれのテリトリーがあり、そこで取り組まれているところに意見はしにくいところはあるが、なんとか打破しなければと思い、話すこともある。例えば、分科会やコア会議を持つなどはどうか。もともと 11 室長としていたのはコア会議の意味もあったと思う。それぞれの部員がそういうマインドを持つことが大事だと思った。

本部員 : だいたい役所の会議には議事・議題があり、今日はこの説明をしますと始まり、説明を聞いて、これについて意見はありませんかという流れが一般的で、会議の目的が情報の共有となっている。宝塚市の地方創生をどう進めていくかについては、皆色々と意見を持っていると思うが、この場で議論をするような雰囲気になっていない。昨日の行革の会議でも、室長はもっと意見を言いたかったと思うが、抑えていて、言いたいことが言えていないところがある。通り一遍の会議ばかりではなく、もっと核心に迫るような会議が必要である。行革における議論の論点はもっと単純なところがあり、そこを本音で意見交換するなどが必要である。本音の部分と言えるような場があると、少し変わるかなと思う。よそ行きみたいになっている。

本部員 : この場でいきなりやるというのは無理だと思っている。日頃から部局を越えて意見交換した上でこの場でということならいいが、短い時間で説明しきれないところがある。都市計画マスタープランを作ったときにも、担当者には庁内関係者と意見交換しておくように伝えた。土壌がなかったら急に会議を開いても意見は出てこない。日頃から個別に意見交換をしておくことも大事だと感じる。

本部員 : しかし、企業の役員であればそうは言っていられない。経営していくにはどんど

ん発言していかないといけない。

本部員 : 元々は個々に本部会議はなく、都市経営会議しかなかった。都市経営会議のように、議題を出してそれに対する意見を言うという進め方が根強く残っている感がある。都市経営会議に一本化するとされてきた中で、色々本部会議を作ってきた1人でもあり、反省点かもしれない。事務局が担当として一生懸命考えて作ってきた資料に対して意見を言うことについて遠慮しているところがある。自分なりに意見を持っていることについては、遠慮なく言える雰囲気が必要である。テーマをあえて崩してでも自由な意見を言える場を挟むなど、それが情報・意見交換会なのかもしれないが、そういった試行錯誤をしないといきなりは変わりにくいと思う。

本部員 : 先ほども意見があったように、会議のやり方を試行錯誤的に変えていった方がいいと感じた。企業であればもっと真剣にやっているというのもその通りだと思う。ただ、現状をみていると本音の部分があまり出てない。自分でも言うようにしているつもりだが足りていない。試行錯誤しながら会議の持ち方を考えないといけない。例えば、情報・意見交換会で言いたいことを言うなどである。今回の創生本部会議でも、固める前に情報・意見交換会で自由に議論した後で固めて、本部会議や都市経営会議にあげていくような流れでやるのもいいのかなと思う。特に今はコロナ禍ですみれ会などもない中で、皆で言い合う場所もないので、そういう工夫をしていけたらと感じた。私自身も努力しないといけないと改めて思った。

本部員 : 会議の持ち方の工夫についてだが、部長を集めるとこれだけの規模の会議になってしまう。都市経営会議などは致し方無いと思うが、忌憚なく意見交換できるのは10人くらいまでだと言われる。議題によっては一同に部長級を集めるのではなく、関係部を集めて実施することも必要だと思う。この創生本部会議でも、密接に関係している部が集まって議論するなど、会議の持ち方を工夫する必要があると思う。話題はそれるかもしれないが、子ども未来部や健康福祉部などでは、厚労省や文科省が用意した多くの補助メニューを活用できる。一方で地方創生推進交付金は、政策横断的な事業にする必要があり、評価も実施しないといけないことから、事業費が減ってきているという事情がある。ただ、少子化対策といっても子どもの分野だけではなく、子どもを生みやすい社会にするために男性の家事負担を増やすとか働き方を変えるなど、市としてできる施策はないかと一緒に泥をこねる場面を作れたらいいと思う。

本部員 : この人数で1人ずつ話すとかかなり時間を使ってしまう。自分だけで時間を使えないということも遠慮につながると思う。関連する部署の会議をやることで、遠慮なく話せるのかなと思う。会議前に何度も話しておくことで、会議のときに効率よく話せるようになる。

本部員 : 都市経営会議の中でも、ちょっとしたきっかけで話が広がることもある。それは、例えば子育てなどのテーマで将来どんな課題があるかという話をするとき広がることもある。特定の分野について皆で自由に話し合うという場があると思う。今は将来を見据えて話し合う機会がない。人数を絞るのも一つの方法だが、部長級のメンバーで情報・意見交換会のような形で自由に大きなテーマについて将来を見据えて話す機会があればいいと思う。

本部長 : 自分自身、一般企業も経験してきて、ここで6か月近く経つが、思いの外それぞれの部署が独立していると感じた。一般企業なら1つの方向に向かって進んでいるが、市がやっている仕事は多岐にわたっていて、部署が違くと全く違っている。部

の数だけ企業があるくらいに感じた。入る前に横串や縦割りという話はたくさん聞いた。横串の刺し方として、他市のある市長は、いくつか部署を決めてやる方法をとっていた。しかし、そのやり方がいいとは感じなかった。ワクチンの件で、健康福祉部とワクチン接種担当が非常に困っていたところを、全く違う切り口で市民交流部が助けてくれた。自治会を通じて手紙を出してくれた。それで一定苦情は収まったと感じた。自治会長などには大変な手間をかけたが、よい判断だったという声を聞く。それは議論する中で横串が自然に出てきたものだった。市民交流部に聞いたところ、快く引き受けて、すぐに動いてくれた。横串の刺し方はこういうものだと感じた。そう思いながらも、都市経営会議などの場では決められたことが進んでいくため、湧き上がってくるものをどう捉えたらよいかが見えないと感じた。今回、事業検証の議論の中に入れてみた。それは、自分のところに上がってくるものに、話し合いの跡が見えなかったからである。どういう話をしてどう決まっていくのか、意思決定の過程を見せてほしいとお願いした。この場の議論を聞いて、皆さん同じ考え方だと思って安心した。それであれば、担当部では気が付かないことを他の部署が提案し議論する場を、どのクラスでやるかということも含めて考えて、縦で割らずに底ではつながっているという形で、何か意思形成をするところ、それを固めていくところを作っていく必要があると感じた。今日の話はありがたかった。普段見えなかったところを見せてもらった気がする。

本部長 : その他質問や意見などはあるか。

本部長 : それでは、議題3については承認してよろしいか。

本部員 : <異議なし>

本部長 : それでは承認とする。

本部長 : 本日の議事は全て終了した。全体を通して何か質問や意見などはないか。
<意見等なし>

本部長 : その他、事務局から連絡事項などはあるか。

事務局 : 特になし。

本部長 : それでは、これをもって令和3年度 第1回 夢・未来 たからづか創生本部会議を閉会する。